

～令和7年度の教育目標と教育活動の重点について～

広州日本人学校 校長 大久 耕

令和7年度 学校経営スローガン

【学校経営方針（経営スローガン）】

「つながりを未来に実感させる広州日本人学校の創造」

【令和7年度学校経営 ～「つながりを未来に」～】

広州日本人学校は、1995（平成7）年4月に広東省教育庁より認可を受け、開校しました。2025年度（令和7）は、開校30周年に当たります。広州日本語補習授業校時代を含めると、開設44年目（1982年開校）になります。

本校は、これまで多くの先達（総領事館、商工会、学校職員、児童生徒、保護者など）によって受け継がれ、守られてきました。この間、近年発生した新型コロナウイルス感染症の影響による、児童生徒数の極端な減少や教育活動の制限など、順風満帆な時ばかりではありませんでしたが、それでも比較的順調に発展し、規模を拡大してきました。

しかし、中国経済の状況の変化、不透明な事件の発生などによって、今まさに広州日本人学校は転換期にあると考えられます。

これらのことを踏まえ、これまで本校を守ってこられた方々への感謝の思いをもち、広州での日本人社会の歩み（歴史）を尊重しつつ、これからの広州日本人社会の在り方を考え、未来において広州で学ぶであろう子供たちへの財産となる学校を創っていくこと、そして今ここで学ぶ子供たちが、将来、広州日本人学校の一員であったことを誇りに思える学校としていくことを目指して、「つながりを未来に実感させる広州日本人学校の創造」のスローガンを設定しました。

学校教育目標

自ら学び、個性豊かに国際社会に生きる児童・生徒の育成

目指す児童生徒像

（知）自ら考え、進んで学力の向上に取り組む子

（徳）自らちがいを認め合い、共に生きていく子

（体）自ら健康と安全に気を付け、たくましく生きていく子

学校教育目標には、「自ら学び、個性豊かに国際社会に生きる児童・生徒の育成」を掲げています。

「個性豊かに国際社会に生きる児童・生徒」とは、文部科学省が示す「グローバル人材」の考え方<sup>\*1</sup>を意識したものです。日本人学校を含め、日本国外で学び、育つ日本の子供たちは「グローバル人材の原石」と言われています。

児童生徒を、日本人としてのアイデンティティを保ち、多様な言語、文化、宗教等の中で社会に貢献できる人材とするために、義務教育段階では主体的・対話的で深い学びを通して広く思考できる力、他者（言語、文化、宗教等）と共生できる力、厳しい環境中에서도心身の健康を保ち活躍

できる力を付けていくことが必要だと考えています。

本校においてはそのために、「自ら」という言葉をキーワードに保護者や関係機関との連携の下、児童生徒の指導・支援に当たっていきます。

※1 世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間  
(文部科学省「産学官によるグローバル人材の育成のための戦略」 2011年)

## 「五つの愛（合い）」ある教育活動

- 子どもと教師とのつながりを大切にする。（向き合い）
- 子どもと授業とのつながりを大切にする。（学び合い）
- 子ども同士とのつながりを大切にする。（高め合い）
- 子どもと保護者・日本人社会とのつながりを大切にする。（付き合い）
- 子どもと中国とのつながりを大切にする。（関わり合い）

仏教に「和顔愛語」という言葉がありますが、この言葉のように児童生徒、教職員、保護者が笑顔で学校と向き合っていくためには、互いに和やかな表情と適切な言葉がけが必要です。



また、広州日本人学校では、これまでも「子ども」「教師」「授業」「保護者・日本人社会」「中国」がそれぞれ相互につながり合って学校を創っていくこと（「五つのつながり」）を経営方針に挙げてきました。

この五つのつながりをそれぞれ「向き合い」（児童生徒と教師）、「学び合い」（対話的で深い学び）、「高め合い」（児童生徒同士）、「付き合い」（保護者・日本人社会）、「関わり合い」（中国・広州）と表現し、「五つの「合い（愛）」」を大切にしたい活動を展開していきたいと考えています。

教育活動を通して、児童生徒や彼らを取り巻く様々なものが、互いに作用し、よりよい循環を作り出していくことにより、学校が「笑顔」や「優しさ」の溢れる空間にしていきたいと考えています。それが、子供たちが愛し、誇りに思える学校の創造へと繋がっていきます。「笑顔」や「優しさ」は、形あるものではありませんが、学校生活には欠かせないものであり、未来に繋ぎ、残していかななくてはならないものだと考えています。

「五つのつながり」により、広州日本人学校での学び（「知」「徳」「体」）を児童生徒が未来で実感でき、ここを離れた後も、その学びを糧にそれぞれの場所で学び続け、やがては大人となり国際社会の中で活躍できる人材（グローバル人材）となってほしいと願っています。

### 教育活動の重点 「五つの“愛”（合い）」を育む六つ視点

- |                       |                         |
|-----------------------|-------------------------|
| (1) 確かな「学力の向上」        | (4) 健康管理能力、体力の向上        |
| (2) 異文化と共生できる資質や能力の育成 | (5) 現地社会・保護者から「信頼される」学校 |
| (3) 道徳教育の充実           | (6) 教育環境の整備             |

広州日本人学校を学校経営スローガンに挙げる日本人学校の創造、児童生徒が誇れる学びの場としていくために、次の六つの視点により教育活動を具体的に展開していきます。